

一人一人に豊かな心をはぐくむ 道徳教育を進めるために



平成19年3月

函館市教育委員会

刊行に寄せて

近年、いじめや様々な非行等の問題が発生する中、生命を大切にする心や思いやりの心、規範意識や社会性の育成などが強く求められており、学校教育においては、調和のとれた人間性をはぐくむため、学校、家庭、地域が十分連携を図りながら、子どもの発達段階に応じた道德教育の推進が大きな課題となっております。

そのため、各学校におきましては、体験活動を生かした道德教育の指導の工夫、魅力的な教材の開発や活用、地域の人々の積極的な参加や協力の促進など、道德教育の一層の充実を図ることが大切であります。

こうしたことから、本指導資料は、道德教育が計画的、実践的に推進され、子どもたちの豊かな心をはぐくまれることを願い、作成したものであります。

各学校におきましては、本指導資料をご活用いただき、子どもたちの夢や希望をはぐくみ、心に響く「道德教育」が展開されることを期待しております。

終わりに、本指導資料の発刊に当たりまして、指導資料作成委員の皆様には、多大なご協力をいただきましたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成19年3月

函館市教育委員会教育長

多賀谷 智

目 次

学校における道德教育の基本的な考え方	1
1 子どもを取り巻く現状と道德教育	1
2 豊かな人間性や社会性の育成と道德教育	2
3 道德教育改善のポイント	3
4 学校教育における道德教育の具体的な進め方	4
道德教育の計画の工夫 ～魅力的なプランづくり～	8
1 道德教育の全体計画を作成する	8
2 「道德の時間」の年間指導計画を作成する	10
3 学級における指導計画を作成する	10
「道德の時間」の指導の在り方	12
1 「道德の時間」を構想する	12
2 資料を工夫する	13
3 発問を工夫する	14
4 指導過程を工夫する	15
5 指導方法を工夫する	16
「道德の時間」の指導の実際 ～体験を生かす道德の授業～	19
1 子どもの発達段階や実態を踏まえる	19
2 体験を生かした道德の授業を工夫する	19
「道德の時間」の指導の実際 ～家庭や地域社会と連携した道德教育～	23
1 効果的な連携を進めるためのしくみを工夫する	23
2 家庭と協力して、温かい人間関係を育てる	25
3 地域の特色を生かし、地域の人々との触れ合いを大切にしたい取り組みを工夫する	26
各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った道德教育の充実	27
1 各教科や特別活動と響き合わせる	27
2 総合的な学習の時間と響き合わせる	28
道德教育の評価の在り方	29
1 評価の進め方	29
2 「道德の時間」における評価	30
3 指導計画の評価	30
「心のノート」の効果的な活用	33
1 「心のノート」の活用場面と活用方法	33
2 「心のノート」の活用における留意事項	34

学校における道徳教育の基本的な考え方

1 子どもを取り巻く現状と道徳教育

(1) 子どもを取り巻く現状

今日、我が国では少子・高齢化が進むとともに、情報化や消費経済の進展が加速度的に進んでいる。そうした中で、価値観の多様化とともに、社会全体のモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘されている。

子どもたちの状況は、

大勢で遊ぶことや友人と語り合う、他人と協力し合うといった機会の減少により、社会性が十分育たず、自己表現力やコミュニケーション能力が低い対人関係を築けない、また、子ども自身が様々な悩みやストレスを抱え問題行動を引き起こしてしまう、などといった状況が見られる。

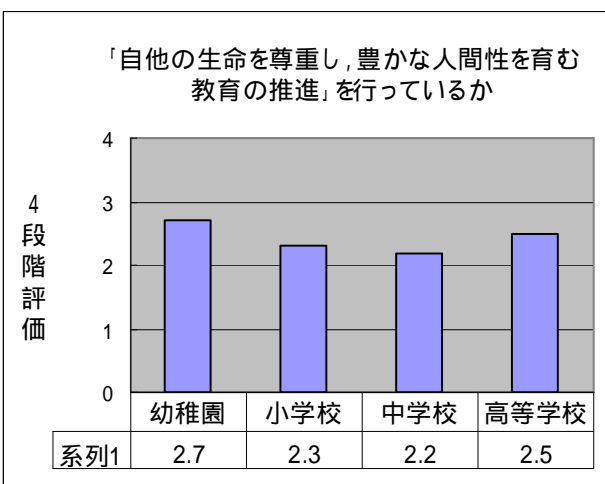
家庭の状況は、

親自身の社会性が欠如していたり、過保護や過干渉、放任や虐待といった家庭の機能を失った状況が見られたり、また、基本的な生活習慣や社会におけるマナー、善悪の判断や思いやりなど、本来、家庭で身に付けさせるべき事柄がきちんとしつけられていないなど、家庭の教育力の低下などが認められる。

(2) 函館市の子どもの実態（「函館市の学校教育推進の指針」（「アプローチ」から）

昨年度実施した「函館市の学校教育推進の指針」の推進状況調査において、「『優しさをもって生きる子ども』の教育（自他の生命を尊重し、豊かな人間性をはぐくむ教育）が推進されているか」という項目の回答は、5段階評価で小学校 2.3、中学校 2.2 という結果であり、函館市における道徳教育の推進が今後の重要な課題ととらえられる。

こうした課題の解決に向けては、



「道徳の時間」とその他教科等の関連を図った指導の工夫

「心のノート」の活用

中学校では、地域の特性を生かした資料の作成や効果的活用

など、より実効性のある道徳教育の推進が求められている。さらに、本市では生徒指導上の様々な問題も指摘されている。

これらの状況から、函館市の学校教育においては、子どもたちに豊かな人間性や社会性を基

盤として、主体的に判断し、よりよく生きようとする力など、「生きる力」の育成に、一層取り組んでいく必要がある。

2 豊かな人間性や社会性の育成と道德教育

(1) 「生きる力」の核となる豊かな人間性

「生きる力」とは、変化の激しいこれからの社会で、他者と協調しつつ自ら課題を見つけ、自ら考え、意欲をもって行動し、よりよく問題を解決できる力であり、「豊かな人間性」はそのための核となる重要な要素である。学習指導要領解説「道德編」では、「豊かな人間性」について次のように説明している。

「豊かな人間性」とは,,,,,

美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
正義感や公正さを重んじる心
生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
他人を思いやる心や社会貢献の精神
自立心、自己抑制力、責任感
他者との共生や異質なものへの寛容 など

心に響く道德教育の推進によって培われる感性や心、
道德的価値

(2) 子どもの道德性を育てる

学習指導要領「第3章 道德」の目標では、「道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養う」となっているが、道德性は、次のようなものと捉えられる。

道德教育で育てる道德性

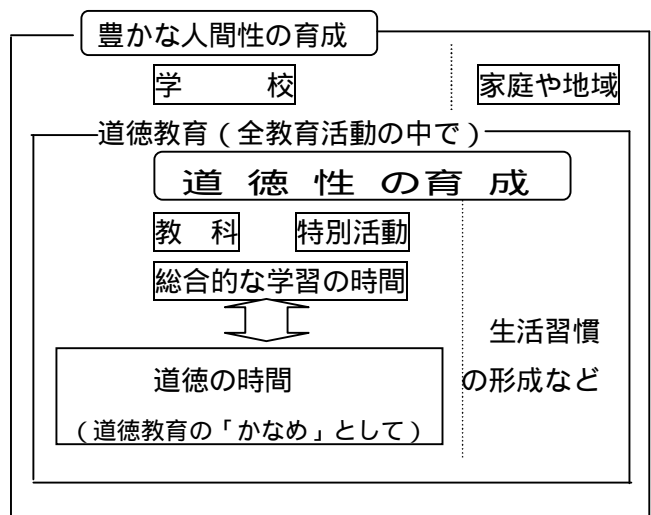
道德的心情・・・道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
道德的判断力・・・それぞれの場面において、善悪を判断する能力
道德の実践意欲・態度・・・道德的心情や道德的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性
道德的習慣・・・長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方

(3) 学校教育全体で行われる道德教育

道德教育において、たとえば「生命尊重」を指導する場合、各教科や特別活動、総合的な学習の時間などで命の大切さに触れながら、道德の時間で、じっくり考えさせることにより、子どもの道德性が深められる。

このように、子どもの道德性をはぐくむためには、道德教育の趣旨を理解し、子どもの道德性の実態を把握しながら、学校教育全体を通じて計画的に指導を行わなければならない。

< 豊かな人間性の育成と道德教育 >



(4) 道徳教育のかなめとしての「道徳の時間」

学校で行われる道徳教育において、重要な役割を果たすのが「道徳の時間」であり、各教育活動において行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合する時間であり、子ども一人一人が自分を見つめ、道徳的価値の自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。

「道徳の時間」が道徳教育全体を補充・深化・統合するとは、,,,,,,

補充する

学校の教育活動では十分考える機会が得られない道徳的価値などについて「補充」する。

深化する

道徳的価値についての自覚が不十分な場合、もう少しじっくり考えさせる機会をもち、「深まり」をもたせる。

統合する

多様な道徳的体験をしているのに、その意味や価値の関連を考えないまま過ごしている場合、立ち止まってじっくり考えることにより、それらを「統合」し、子どもの中に新たな感じ方、考え方を生み出す。

道徳的実践力とは

人間としてよりよく生きていく力。主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するもの

3 道徳教育改善のポイント

道徳教育がより効果を上げるためには、学校が道徳教育の目標をとらえた確かなプランを作成するとともに、指導の重点を明確にし、全教職員の共通認識の下、取り組むことが大切である。

豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進

- ・道徳の時間の指導の在り方を押さえて指導する
- ・魅力的な道徳資料の開発や活用を進める
- ・道徳の時間に多様な体験活動などを生かす
- ・各教科等においても生き方を実感できるようにする
- ・校長を中心とした学校の指導体制を充実する

開かれた道徳教育の展開

- ・家庭や地域の人々の参加・協力を求める
- ・学校間（近隣学校や異校種など）の多様な交流を促進する
- ・地域の特色を生かした体験活動を進める

【道徳教育の充実により】

子どもや学級が変わる

- ・自分自身について深く見つめるようになる
- ・自分のよいところをさらに伸ばそうとするようになる
- ・自分らしい生き方について深く考えるようになる
- ・美しいものを、生命あるものを大切にようになる
- ・豊かな人間関係を自分から築こうとするようになる。
- ・進んで道徳的実践を行うようになる

教師や学校が変わる

教師は・・・

- ・子どもの成長を見守るゆとりが出てくる
- ・子どもの心を受け止める道徳の授業の展開ができるようになる
- ・子どもを多面的に理解できるようになる

学校は・・・

- ・子どもにとってより温かい居場所となる
- ・子どもの心の問題について、教職員間に共通の関心が生まれてくる

家庭や地域が変わる

- ・学校の道徳教育へのより深い理解が得られる
- ・地域の教育活動への様々な協力が得られる
- ・地域社会が豊かな体験の場となる
- ・家庭や地域の教育力が高まる

4 学校教育における道徳教育の具体的な進め方

(1) 道徳教育の目標をとらえた確かなプランをつくる

道徳教育は、学校の道徳教育の全体計画と道徳教育のなめとしての道徳の時間の年間指導計画に基づきながら展開される。

道徳教育の計画の作成に当たっては、子どもや保護者、地域社会の実態や願いを的確に把握しながら、以下の観点で全体計画や指導計画を整備・再点検、評価し、柔軟に修正を加えていくことが大切である。また、道徳教育の具現化を一層図るため、学級経営の基盤となる学級における指導計画の作成も重要である。

道徳教育を充実させる3つの計画

道徳教育の全体計画

学校の教育目標と明確に関連付ける
学年ごとの指導の重点を設定する
学校や地域の特色から重点化を図る
「心のノート」の学校としての生かし方を示す

全教育活動での取組の方向を示す
道徳の時間の役割を明確にする
協力、連携体制を明確にする

道徳の時間の年間指導計画

学年の発達段階や実態を踏まえ、子どもの心に響く主題配列を工夫する
関連的、発展的な指導を工夫する
豊かな体験活動を生かす工夫をする

重点的な指導を工夫する
子どもの具体的な課題を取り上げる

学級における指導計画

学校全体の道徳教育の具体化を図る
学級担任それぞれのモチ味を生かす
「心のノート」の生かし方を示す

子どもや教師の願いを反映させる
体験活動等を位置付ける

(2) 子どもの心に響く、魅力ある「道徳の時間」をつくる

子どもの心に響く「道徳の時間」を実践するためには、まず教師自身が「道徳の時間」をやりがいのある時間として、その価値や手ごたえを感じられるようになることが重要である。そのためには、子どもの実態を見据えたプランづくりを進めるとともに、多様な体験活動を生かすなど、魅力ある「道徳の時間」を創造することが大切である。

子どもの心に響く、魅力ある「道徳の時間」をつくるポイント

子どもの悩みや心の揺れを捉える
心に響く多様な資料を選び、開発する
資料の生かし方を工夫する
学習活動を工夫する
学習の場を工夫する
指導する時間を弾力的に考える
学習集団を多様にする
指導体制の充実を図る

など

(3) 各教科・特別活動・総合的な学習の時間における道徳の授業との関連

子どもは各教科や特別活動、総合的な学習の時間の中で常に多様な発見や学びをしている。また、それらの目標や内容には道徳性の育成にかかわる部分が多い。総合的な学習の時間でねらいとする「自己の生き方を考える力」は、子どもが自分らしさや、自己の成長を確かめる力でもある。

そこで、これらの学習と道徳の時間との関連を図る指導によって、子どもが自分自身の生き方の問題として自覚し、また、道徳の時間で深められた道徳的価値が、教科等の学習や日常の様々な場で実践されることが期待される。

(4) 家庭や地域社会との連携を生かした道徳教育を進める

道徳教育は、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、一貫した方針を保ちながら、子どもの道徳性が豊かにはぐくまれるよう努める必要がある。そのような中、学校は教育の専門機関として、道徳教育の意義についての啓発活動を推進することが大切である。

家庭や地域社会との連携を図った道徳教育を推進するためのポイント

共通理解を図る

学校としてのビジョンの提示

「心のノート」の活用

「道徳の時間」の地域への公開

学校通信、学年・学級通信等による道徳的な話題の提供

連携を深めるしくみづくり

町会、ボランティアグループ等、地域の多様な組織を生かした教育力の活用

地域懇談会などの組織づくり

学校の教育活動に常に協力が得られるシステムづくり

多様な連携の工夫

子どもの心と触れ合い，語り合う場をつくる

地域行事への参加等，地域の特色を生かした活動を工夫する

P T Aなどの組織の活用等，家庭や地域と連携して行う活動を工夫する

(5) 子どもの実態を把握して指導に生かす道徳教育の評価を行う

道徳教育における評価は，教師が子どもの人間的な成長を見守り，より良く生きようとする努力を評価し，勇気づけるものでなければならない。それは数値的な評価の対象とされるものではなく，教師と子どもの温かな触れ合いやカウンセリングマインドに基づき，共感的に行われるべきものである。

道徳教育の評価の対象は，「子どもについての評価」と教師の「指導や計画の評価」の二つに分けられる。また，評価の場面としては「道徳の時間における評価」と学校の教育活動全体で行う「道徳教育の評価」に分けられる。

道徳教育における評価の留意点

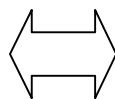
- ・子ども理解を深め，子どもがよりよい生き方を求めるような評価
- ・子どもが自分の心の成長を確認できる「道徳の時間」の評価
- ・子どもの心の成長を確かめ，道徳教育をより充実させる評価

(6) 道徳教育を推進するための研修の充実を図る

道徳教育は学校全体で行うものであり，教師にとっては，日常の指導や学級経営，授業，専科の経営等がすべてにかかわっている。教師自身が実践的な指導力を高めるために，道徳の時間や体験活動の充実を目指した研修を積み重ねることが大切である。

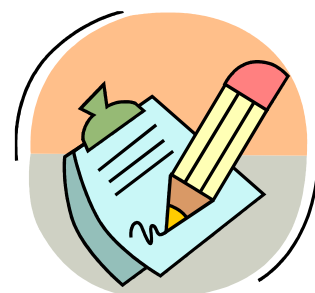
道徳教育の研修を充実させるための留意点

教師が必要感や課題意識をもつ
常に子どもの実態から出発し，還元する
全教師で組織的に行う
研修を体系化し，他の研修と関連を図る
記録，評価を行い，研修の改善を図る
他校との研修交流を行う



道徳教育・道徳の時間の研修方法例

- ・校内における授業研究
- ・参観日等での授業公開
- ・指導者を招いての講話
- ・道徳の授業の事例等の研修
- ・研究会への参加・発表



(7) 心のノートの活用を図る

「心のノート」は、子どもが身に付ける道德性の内容をわかりやすく表したものであり、自らの生き方について考え、自ら道德性をはぐくむことができるように作成されている。

また、家庭や地域社会が連携して子どもの道德性をはぐくむための「心のガイドブック」としての活用も考えられる。「心のノート」は、いつでも、どこでも、そして何度でも、を合言葉に教育活動の様々な場面で活用を図りたい。

「心のノート」を生かすポイント

- (1) 教職員が心のノートの内容を理解し、使用に関する共通理解を図ること
- (2) 道德の時間以外の、様々な場面での利用・活用を充実させること
- (3) 家庭・地域社会と連携した活用を図ること
- (4) 心のノートを通じて子ども一人一人とかわかり、教師が子どもに寄り添う配慮をすること

子どもの道德性にかかわる意識や実態を把握する

子どもの道德的な実態を把握し、その人間的な成長を促す評価は、子どもの道德性を高める上で重要な評価である。現在、喫緊の課題である「生命尊重」、「命の大切さ」、「生命に対する畏敬の念」などの心を育てる上でも、子どもの道德性の意識や実態を把握し、道德の指導に生かしていきたい。

子どもの道德性にかかわる実態を把握する例

【自己存在感】

学校に行くのが楽しいです。(充実感)

勉強の後「よくがんばった」と思います。(充実感)

私は、学級の友人のために、役立っていると思います。(有用感)

学級には、私がうまくできたとき、いっしょに喜んでくれる友人がいます。(所属感)

私が学級で休んだら、学級の人、心配してくれると思います。(所属感)

学級の人、私が発表したとき、いつもしっかり聞いてくれます。(社会的承認)

【共感性】

ひとりぼっちでみている友人を見ると、声をかけたくくなります。(感情認知)

けがをしている友人を見ると、心配になります。(感情認知)

苦手なことの練習をしている友人を見て、よくがんばっている
なと思います。(情動の受容)



道徳教育の計画の工夫 ～魅力的なプランづくり～

1 道徳教育の全体計画を作成する

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。

全体計画は、道徳教育の基本方針を具現化する上で、学校としての重点や留意すべき点は何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会の連携をどう図っていくのかなどについて、総合的に示すものでなければならない。

(1) 全体計画の意義

豊かな人間形成の中核として、各学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を有機的、効果的に推進するための基盤とすることができる。

道徳の時間の位置付けや役割が明確となり、教育活動相互の有機的な関連を図ることができる全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる。

家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力が具体化できる。

(2) 全体計画の内容

基本的な把握事項

ア 教育関係法規，時代や社会の要請や課題，教育行政の重点施策

イ 学校，地域の実態，教職員，保護者の願い

ウ 児童生徒の実態と課題

具体的な計画事項

ア 学校の教育目標，道徳教育の重点目標，各学年の重点目標

イ 道徳の時間の指導方針

ウ 各教科，特別活動，総合的な学習の時間などにおける道徳教育の指導の方針

エ 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針

オ 学級，学校の間関係や環境の整備，生活全般における指導の方針

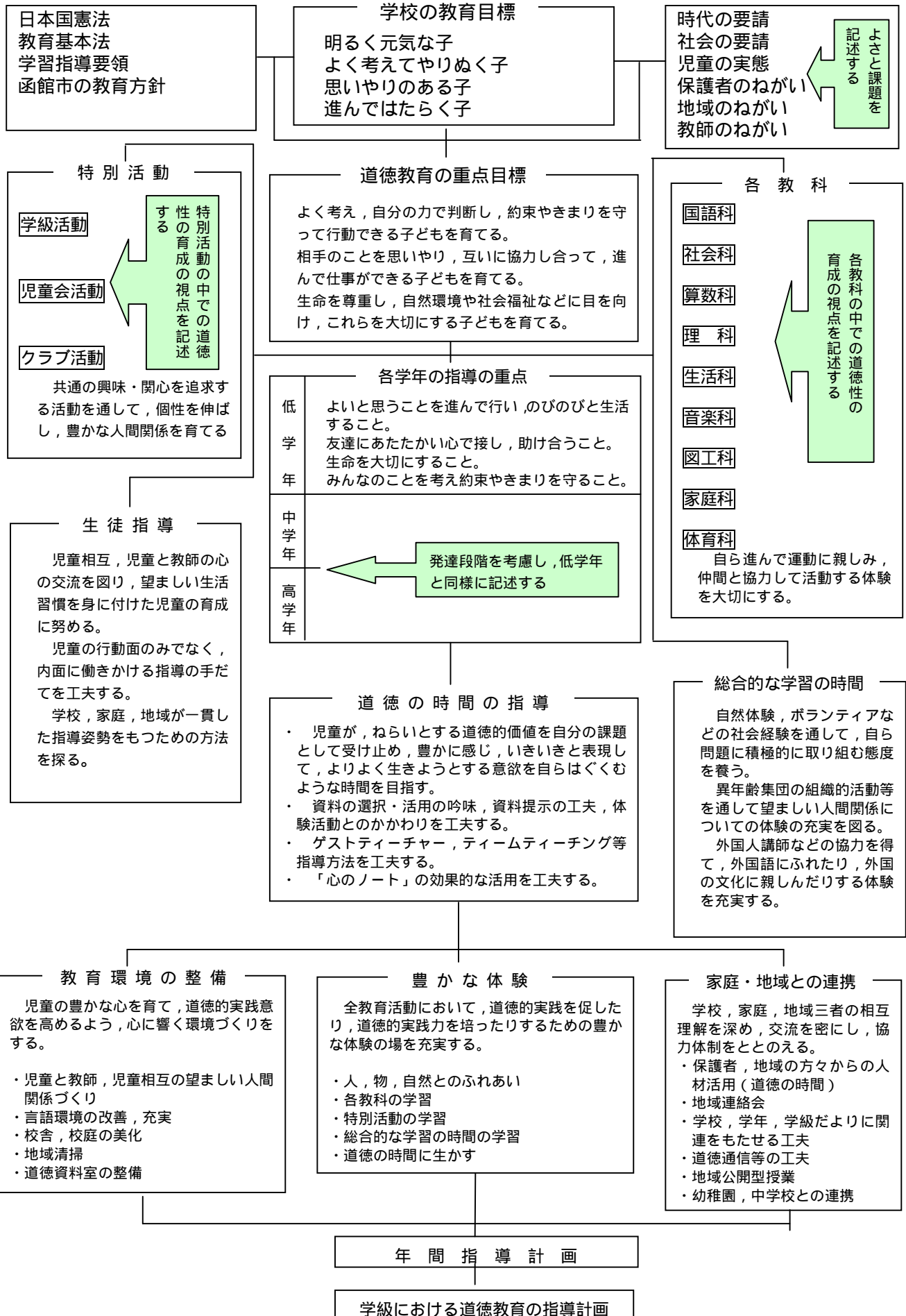
カ 家庭，地域社会，他の学校や関係機関との連携の方法

キ 『心のノート』の活用

ク 教職員の研修計画

ケ 年度の重点的指導に関する資料

学校における道徳教育の全体計画の例 (小学校)

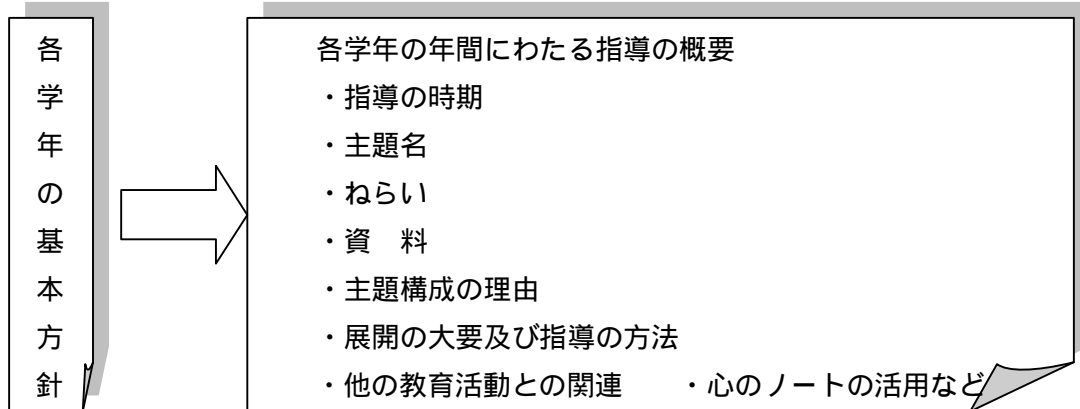


2 「道徳の時間」の年間指導計画を作成する

「道徳の時間」の年間指導計画は、道徳の時間の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、子どもの発達に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる指導計画である。

年間指導計画は、各学校において創意工夫して作成するものであるが、特に次の内容を明記しておくことが望まれる。

年間指導計画の内容



年間指導計画例（中学校）

月	週	主題名	内容項目	資料名	出典
5	1	心も体も元気で	1 - (1)	明日へ出発	「読み物資料とその利用」(文部省)
ねらい		マラソン大会に向けて、一生懸命練習に取り組む私の姿を通して、心も体も健康な生活をしようとする態度を育てる。			
展開の概要 (主な展開)		1 心のノート p14・15「元気ですか あなたの心とからだ」を読む。 2 資料「明日への出発」を読んで話し合う。 早朝練習を始めた時の私は、どんな気持ちだっただろう。 4日ぶりのマラソンで、どんなことを感じただろう。 「1日1日が、積みり積もって私の人生になる」とは、どいいうことだろう。 3 自分の生活を振り返る。 4 ゲストティーチャーからの話を聞く。			
他の教育活動との関連			心のノートの活用		その他
・学級活動 ・保健体育			導入：p14・15		終末でG Tの話

3 学級における指導計画を作成する

学級における指導計画とは、全体計画を子どもや学級の実態、子どもに寄せる思いや願いに応じて具体化するものであり、学級において教師や子どもたちの個性を生かした道徳教育を展開する指針となるものである。

指導計画の作成のポイント

- ・道徳教育の全体計画との関連が図られていること
- ・子どもたちの実態が把握されていること
- ・学級担任の願いや意図が明確になっていること
- ・豊かな体験の場や機会が位置付けられていること

学級における道徳教育の指導計画の例 (小学校)

< 子どもの道徳性の実態 >

正直で素直な子どもが多い。物事を前向きに考え、とらえようとする意識が高まりつつある。
 友達のよさ・持ち味を進んで見ようとする子どもが多い。明るく進んで あいさつできる。思いやりのある言動が多く見られる。反面、乱暴な言動をしてしまう子どもが数名いる。
 生命や自然の大切さについての認識はあるが、生命を軽視した言葉を発する子どもが数名いる。
 係活動はよく機能している。校内外のきまりや約束を遵守しようとする意識は高い。「モラル」「マナー」「エチケット」といった高次の意識をもっている子どもは多くない。

< 学年・学級目標 >

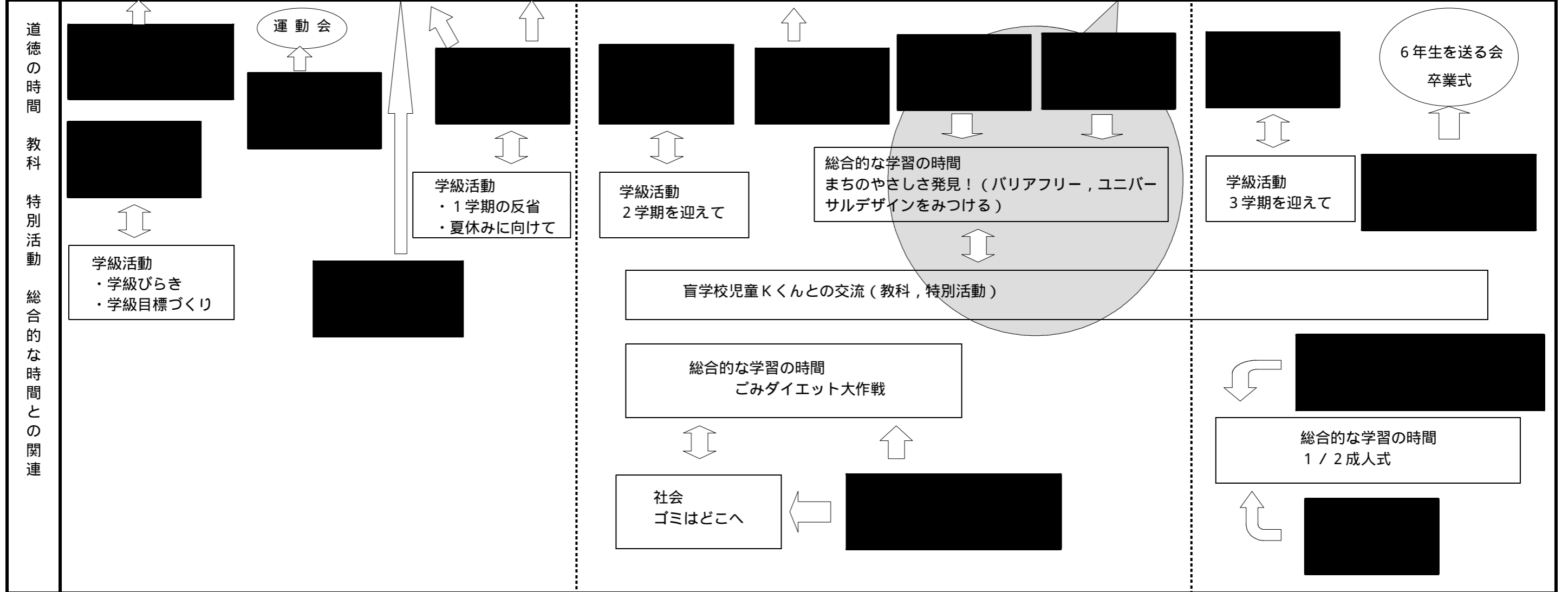
すくすく育つ みんなともだち

話をよく聞くクラス(知)
 明るくあいさつするクラス(徳)
 みんなの気持ちを考えるクラス(徳)
 元気に遊ぶクラス(体)

< 重点目標 >

- ・自分でやろうと決めたことは、ねばり強くやり遂げる(勤勉努力)。
- ・相手のことを思いやり、親切にする(思いやり)。
- ・自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする(自立・節制)。
- ・正しいと思うことは、勇気をもって行う(正義・勇気)。
- ・美しいものや気高いものに感動する心をもつ(感動と畏敬)。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学校行事等	始業式 入学式 家庭訪問 健康診断 春の遠足 授業参観	通学路確認 1年生を迎える会 健康診断 運動会	避難訓練 健康診断 (修学旅行) (宿泊研修)	授業参観 交通安全教室 大掃除 一学期終業式	二学期始業式 自由研究発表会 授業参観	三役選挙 秋の遠足 避難訓練 開校記念日	桐陽発表会 2計測 個人懇談会 体育の日	個人懇談会 勤労感謝の日 校内研究授業	特別支援授業公開 授業参観 二学期終業式 大掃除	三学期始業式 自由研究発表会 避難訓練	三役選挙 建国記念の日	6年生を送る会 授業参観 卒業式 大掃除 修了式 離任式
全校のめあて	明るいあいさつ みんなともだち	元気なからだ みんなともだち	きまりを守る みんなともだち	楽しい計画 みんなともだち	きれいな学校 みんなともだち	きれいな学校 みんなともだち	のびのび発表 みんなともだち	ことばで伝えて みんなともだち	思いやり助け合い みんなともだち	夢を育てて みんなともだち	寒さに負けず みんなともだち	感謝を伝えて みんなともだち



日常の活動

- ・「互いのよさ・持ち味を認め合う」「思いやりの心」を高める。
- ・エピソード探し...些細なことでも「思いやりの心」が見えた言動を子供に話して聴かせたり、学級通信にコラムとして紹介する。
- ・「さんありがとう」「のプロ発見」等コーナーの設定、「ピー玉貯金」...家庭学習の場、帰りの会で、意図的・計画的に行う。
- ・「感じる心」を高め、言葉を大切に表現する意欲を高める。
- ・「見たこと作文」...普段何気なく見ているものに興味・関心を持ち、五感を通して見たこと・思ったこと・感じたことなどを作文で表現する。
- ・アサーションの考え方を取り入れ、自分も相手も大切にする表現の仕方を随時指導する。

「道徳の時間」の指導の在り方

「道徳の時間」においては、年間指導計画に基づき、子どもや学級の実態に即して適切な指導を展開することが大切である。そのために、学校の全教師が道徳の時間の特質を踏まえ、次のような指導の基本方針を踏まえて指導する必要がある。

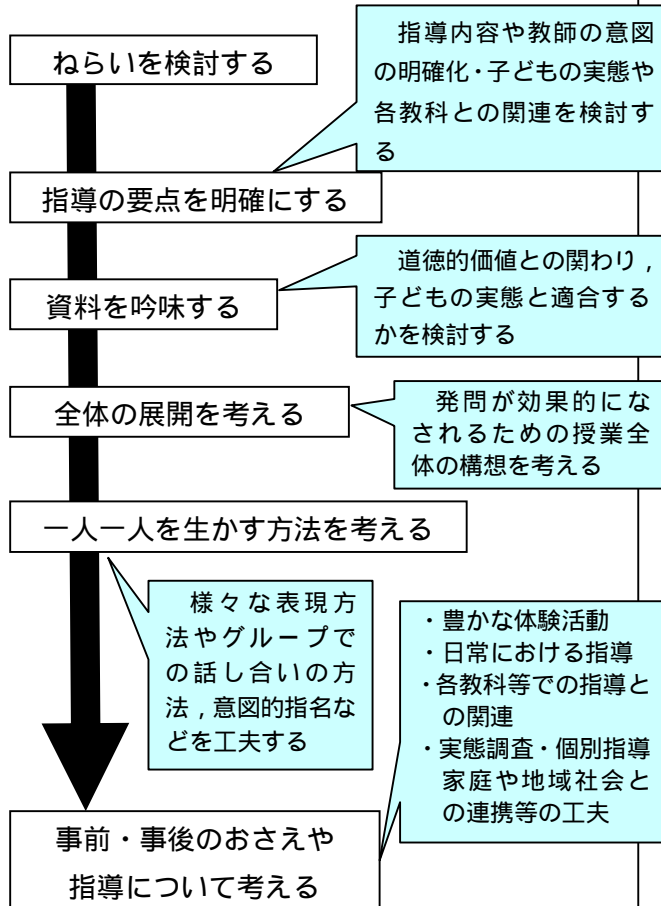
< 指導の基本方針 >

- (1) 「道徳の時間」の特質を理解する。
- (2) 信頼関係や温かい人間関係を確立する。
- (3) 児童が自己への問いかけを深め、未来に夢や希望をもてるようにする。
- (4) 児童の発達や個に応じた指導を工夫する。
- (5) 「道徳の時間」が道徳的価値の自覚を深めるかなめとなるよう工夫する。
- (6) 児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢をもつ。

(小学校学習指導要領解説 道徳編から)

1 「道徳の時間」を構想する

< 学習指導案作成の主な手順 >



子どもの心に響く 道徳の時間をつくるポイント

子どもの悩みや心の揺れをとらえる

- ・ 日常観察や調査で悩みや心のゆれを把握する。

心に響く資料を選び、開発する

- ・ 感性に訴え、生きる喜びが与えられる資料を選ぶ。

資料の生かし方を工夫する

- ・ 登場人物への共感や感動を引き出す発問を考える。

学習活動を工夫する

- ・ 体験を生かしたり、調査・取材・表現活動の工夫をする

学習の場を工夫する

- ・ 座席の形態、教室外や地域施設などでの学習を考える。

指導する時間を弾力的に考える

- ・ 複数時間の指導や主題の関連を図った学習活動を考える。

学習集団を考える

- ・ テーマ別グループ・複数学年グループなど、学習する形態を工夫する。

指導体制の充実を図る

- ・ 校長や教頭、TTや地域人材の活用など多様な指導体制を工夫する。

2 資料を工夫する

「道徳の時間」の目標の達成に向け、子どもに充実感をもたらす指導を進めるためには、子どもの心に響く資料を選択し、多様な資料の開発と効果的な活用に努めることが大切である。

(1) 資料を選択する

資料を選択する際には「道徳の時間」の目標を踏まえ、「子どもの心に響き、心を揺さぶる資料」や「感動性が豊かで、生きる喜びや勇気が与えられ、人間としてよりよく生きていくことの意味を考えさせる資料」などを選択することが大切である。

魅力的な資料を選択し開発するポイント

- ア 資料を副読本だけでなく、文学、時事問題などに幅広く求める。
- イ 子どもとともに考えたい問題やテーマに照らして、資料化できそうなものを普段から収集し、ファイルしておく。
- ウ 資料の表現形式を、読み物の形に偏りすぎないようにする。
- エ 校内や地域の素材を生かした資料や郷土資料をつとめて発掘する。
- オ 資料・素材コーナーを整え、全教師の収集への意識を高める。

(2) 資料を分析する

資料分析は資料に含まれている道徳的価値や関連する道徳的価値の構造を明らかにし、本時のねらいの達成を目指し、中心的な発問等を構成するために行う。

資料の場面の展開に即して、心情の変化などをとらえる方法（物語資料など）

資料の主な場面・主人公の言動・主人公の心の動きから、価値内容を押さえ、子どもに気づかせたいこと・効果的な発問などを考える。

資料に対する子どもの受け止めやとらえを中心にして分析する方法

（一枚絵や写真など、子どもが内容を自由に受け止め、考えることができるもの）

子どもの感じ方・考え方などを予想し、資料の核となる部分や、予想される発問を考える。

資料分析例（資料場面の展開に即して心情の変化などをとらえる方法）中学校2学年

主題名 生命尊重3 - (2) 資料名 「死せる子 生ける子」

資料について 旭川市に在住する詩人が、子どもを授かりたいと何度も妊娠を経験し、ついに小さな命を手にした喜びと医師の心に響く言葉を綴った資料

主要場面（事実）	主人公の心の動き	気づかせたいこと	発問
結婚して初めて授かった子どもの死と藤田医師の言葉。	重く哀しい気持ち。落胆の底にある。自分を失っていた。	母親の深い悲しみ 言葉とは裏腹な医師の気持ち。	なぜ藤田医師はあんなことを言ったのだろう。
その後二度妊娠し、子どもを失った。そして医師に浴びせた言葉。	のろいたような気持ちと深い悲しみ。	それだけ子どもが欲しかったということ。	何回も妊娠しているということはどういうことか。
四度目の妊娠と大量出血。	生みたいという気持ちをなくしていた。	過去の経験が、心に重くのしかかっているということ。	この時の東さんの気持ちはどんなものだろう。

3 発問を工夫する

発問は、子どもの心を動かし、多様な考えを引き出すために重要である。特に、子どものこだわりや問題意識が生かされる発問、発言に自由度がある発問、考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられる発問などを考えることが大切である。

(1) 基本発問 (ねらいを達成する上で基本となる発問)

資料の流れを学級全体で共有し、子どもの体験に戻して考えさせる発問
ねらいに対して最も骨格的な部分での発問
主人公の物の見方や考え方の中心部分での発問
子どもの実態と照らした共通点や相違点を明らかにする発問
指導過程の中核となる場面での発問

注意したい発問例

資料の筋を追うような発問
一問一答的な発問
本音の強要を求める発問
誘導的な発問
子どもの人格を無視する発問

(2) 中心発問 (基本発問の中で、ねらいを達成するのに最も重要な発問)

ねらいにかかわって、子どもの考え方・感じ方が多様に引き出せる発問
ねらいにかかわって、主人公の考え方に至った動機や原因を共感的に問う発問
ねらいとする価値に対して、自分自身がどのように実践してきたか、どのように考えてきたか振り返らせる発問

(3) 補助発問 (基本発問や中心発問を補い、関連付ける発問)

基本発問で、子どもが理解しやすいように、かみ砕いたり、言い換えたりする発問

コラム

効果的な発問とは . . .

意図的・計画的であること

- ・ねらいに迫ることができる構想を考える。各段階の果たす役割が実現するように構成する。
- 一貫性があること
- ・子どもの実態をふまえ、反応を予測し、子どもの意識の流れに沿って一貫性をもたせる。
- ・中心発問につながり、前の発問を深め、後の発問に発展していくように関連をもたせる。

内容が明確であること

- ・何をたずねているのか、はっきりわかる内容にする。

考えるゆとりがあること

- ・発問を精選し、じっくりと考えさせるようにする。

多様な考えが出るようにすること

- ・反応を予測し、それを広げる工夫をする。(学習形態・グルーピングなど)

4 指導過程を工夫する

「道徳の時間」は、子どもが自分なりの問題意識をもって資料などと出会い、学び合いを通してねらいに迫るとともに、自分を見つめる目や周囲の人への共感を豊かにしていく時間である。

指導過程は、次のようなものが一般的であるが、学習内容や子どもの実態などに応じて柔軟に工夫することが大切である。

(1) 一般的な指導過程

導入：主題に対する興味や関心を深めて、学習への課題をもち、意欲を高める。

展開：資料による話し合いや自分自身を見つめることを通して、本時のねらいとする道徳的価値の自覚を深める。

終末：話し合いをまとめたり、道徳的価値に対する思いや考えを深めたりして今後につなげる。

(2) 一般的な学習過程のポイント

		役割
導 入	気 づ く	ねらい(とする価値)への方向付け ・ねらいへの興味・関心を高める。 学習への動機付け ・授業の雰囲気をつくる。 資料の解説、資料への興味付け ・時代背景・登場人物などについて簡単な補説をする。
		資料を中心に、ねらい(とする価値)を追求・把握する ・正面から資料に取り組み、主人公に託して自分の気持ちを語らせる。
展 開	と ら え る	
	見 つ め る	資料から離れて自分の生活を振り返り、自分の価値観に気づき、高める ・資料から学んだ価値と自分とを対比する。 ・現在及び将来にわたる価値観の自覚をもたせる。 ・中心となる価値にこだわらず、一人一人の気づきや思いを認め、広げる。
終 末	つ な げ る	本時の整理やまとめを行う ・実践への意欲をもたせる。 ・希望や期待感をもって終わるようにする。 ・板書の活用・教師の説話・作文や手紙・格言やことわざの読み聞かせ など。

< 発問例 >

~したことがあるか。
 ~を見たり、聞いたりしたことがあるか。
 これから~という資料を読んでいこう。
 ~という課題について考えてみよう。
 *深入りしないで、さらりと。

< 発問例 >

最も心に残った部分はどこか。なぜか。
 主人公の行動や考え方について感じたことは何か。
 主人公がそのように行動したのはなぜか。
 そのような主人公をどう思うか。

< 発問例 >

自分だったらどうするか。
 見習うべきはどんな点か。
 今日の学習から学んだことは何か。
 今後の生活で心がたいことは何か。
 主人公の行動(考え)から自分たちはどうしなければならぬと思うか。

< 子どもの考えの広がり >

こういうことをやってみるのもいいな。
 これからも自分のこととして考えよう。

5 指導方法を工夫する

ねらいを効果的に達成するためには、ねらい、子どもの実態、資料や指導過程などに応じて、資料の活用や話し合いの仕方、表現活動など、指導方法を創意工夫することが大切である。

(1) 資料提示の工夫をする・・・想像，共感をかき立て，子どもを道徳資料の世界へ引き込む

多様な方法例

- ・大型絵や紙芝居等を用いる。
- ・パネルシアターによって提示する。
- ・黒板を劇場や舞台のようにして提示する。
- ・テレビ，パソコン，プロジェクター，録音等の視聴覚機器を生かす。
- ・補助資料（実物や写真，効果音等）を生かす。

工夫に当たっての留意点

- ・工夫する点をしぼり，子どもの資料読み取りや視聴に傾注できる配慮をする。
- ・道徳資料の世界の「間」を生かして，資料提示にメリハリをつける。
- ・寓話（物語等）と実話（ノンフィクション等）のそれぞれの特質が生きる工夫をする。

(2) 話し合いの工夫をする・・・子ども相互に多様な考えを学びあい，深め合う工夫をする

多様な方法例

- ・討論やグループ討議・代表発表などを取り入れる。
- ・構成的グループエンカウンターの手法を取り入れる。

対応の工夫例

- ・心の様子や考え，立場を色別，類別，グラフ等による視覚化を図る。
- ・多様な意見，きっかけとなる意見を引き出す意図的な指名を行う。

場づくりの例

- ・座席の配置で立場を明らかにし，意見を交わす工夫をする。
- ・教室だけでなく，特別教室やオープンスペース，校庭や資料館，図書館などで話し合う。
- ・ペアで話し合いを行う。

工夫に当たっての留意点

- ・教師が子どもの発言を繰り返すことは，必要最小限にするように努める。
- ・学級での話し合いのルールは創造的な話し合いを制約することがないように配慮する。

(3) 表現活動の工夫をする・・・一人一人の考えを引き出し，思いを一層深める

多様な方法例

- ・役割演技（ロールプレイング）を取り入れる
 - ・・・特定の役割をもって即興的演技から深める方法
- ・動作化を取り入れる。
 - ・・・動きを忠実に真似て実感的な理解を深める方法

- ・疑似体験活動を取り入れる。(アイマスク体験など)
 - ・・・セットされた条件の中での追体験的な活動
- ・劇化的活動を取り入れる。
 - ・・・台詞や演技の真似をして、状況や心情を感じ取る方法
- ・人形劇などの手法を取り入れる。
 - ・・・人形や紙人形(ペープサート)を持って演じながら語る方法

工夫に当たっての留意点

- ・伸び伸びと表現できる環境づくりと、演技の巧拙への関心に流れないように配慮する。
- ・自然で発展的な思考の深まりが逆に阻害されるような演技にならないようにする。

(5) 書く活動の工夫をする・・・個別化の中で個性的な考えが深める

多様な方法例

- ・吹き出しを付けた形式のものを使用する。
- ・自分のことを伝える手紙等を使用する。
- ・作業的、ゲーム的な内容を組み入れたものを使用する。
- ・自己評価欄を設けたものを使用する。
- ・絵や記号で書く形式のものを使用する。

工夫に当たっての留意点

- ・書く場面、書く形式、書く回数を柔軟に考え、子どもの負担にならないよう配慮する。
- ・何を書いても認められるようにして、段階的、数値的な評価にならないようにする。

(6) 板書の工夫をする・・・子どもの思考を深める共通の「ノート」として生かす

多様な方法例

- ・話し合いの中心部分をクローズアップした構成にする。
- ・意見の違いが捉えやすく類別化、類型化されて示された構成にする。
- ・黒板を劇場や物語の舞台にしたような構成にする。
- ・場面絵や、心情図、心情曲線などを生かした構成にする。

工夫に当たっての留意点

- ・右から左への川流れ的な板書を越えた「構造的な板書」を大切にする。
- ・教師の力を込めた板書だけではなく、子どもとともに作り出す自由度のある板書にする。

(7) 指導体制を工夫する

多様な方法例

- ・チームティーチングによる指導を行う。
- ・ゲストティーチャーの協力を得る。

工夫に当たっての留意点

- ・2人の指導者によって、子ども一人一人の見方、感じ方を深く捉えるようにする。
- ・ゲストティーチャーと、指導のねらいや方法について十分に話し合っておく。

「道徳の時間」を支える学級づくり

「道徳の時間」の指導は、学級経営が基盤であると言われる。それは、子どもの道徳性はその環境に無意識のうちに影響されるからである。例えば、子ども一人一人が自分の感じ方・考え方を伸び伸びと表現できる雰囲気があり、学級の中で「自分は大切にされている」という意識がもてる学級であれば、やさしさが育つであろうし、公正で差別のない雰囲気の中で過ごしていれば、正義感が身に付くであろう。このように学級に道徳的な雰囲気があることは、子どもの道徳性を高めるために極めて重要である。

構成的グループエンカウンターとは

グループのリーダーの指示に従って行うエクササイズを通して、本音と本音の交流や感情交流ができるような人間関係を体験することである。つまり、体験活動を通して、自分や相手のことを肯定的に受容し、子どもたちの人間的な成長を援助しようとするものである。

このことは、特に自己理解や他者理解を深めるために役立つと考えられる。

構成的グループエンカウンターを活用した授業例（小学校第6学年）

<主題名> 「これからの自分が大切にしたいこと」 <資料名> 「トマトとメロン」

<ねらい> これから生きていくために大切にしたいことを明らかにする中で、自分のよさに気づく。

段階	指導の流れ	支援・留意点
気づく	1 「これまでの自分の人生を一言で言う」とのアンケート結果を見る。	いろいろな生き方があることを意識させる。
とらえる	2 資料「トマトとメロン」を読む 3 生きていくうえで、これからの自分が大切にしたいこと考える。 4 「大切にしたいこと」に順位をつけて選択する。	4人で自由に話せる時間を保証する。 自分と友達の考えの違いに着目させる。
見つめる	5 グループごと、学級全体で話し合う。 6 もう一度自分を振り返りながら、「大切にしたいこと」に順位をつける。 7 学習を振り返りながら、自分のよさに気づき、これからの生活における理想をもつ。	自分と他のグループの違いや、自分の考えのよさに気づかせる。 これからの生き方について、考えさせる。

「生きていくうえで、自分が大切にしたいこと」を考え、順位をつけたり話し合うエクササイズを通して（エンカウターの手法の利用）自分のよさに気づき、生きる希望をもつ。



「道徳の時間」の指導の実際 ～ 体験を生かす道徳の授業～

子どもは学校、家庭、地域社会で多様な体験を積み重ねながら、様々な道徳性を芽吹かせている。そのため、道徳の授業で、それらの体験を生かし、道徳的なよさを子ども自身でとらえさせることが大切である。

1 子どもの発達段階や実態を踏まえる

(1) 想像や空想の世界に浸ることのできる低学年

低学年の子どもは、想像力によって豊かな想像の世界を描くことができる。この想像力による体験は、**内的な体験**と呼ぶことができるが、これは道徳性の育成の基礎となるものである。

(2) 問題解決能力の発達に伴い興味をもって取り組む中学年

中学年の子どもは、**問題解決能力の発達**に伴い、体験的活動を「道徳の時間」に生かすことにより、一層興味をもって取り組むようになる。

(3) 他とのかかわりを考え、論理的思考が育つ高学年

高学年の子どもは、自分がこれまで得た知識と結び付けながら、**物事を客観的に考える力**が育ってくる。登場人物から離れて自分のこととして考えることができるとともに、相手の立場になって他者を思いやる**共感する力**が発達する。

(4) 独自の内面の世界をもつ中学生

中学生は、多様な体験的活動を通して自己理解を深め、自己の内面に気付くことができる。そして、自らの思いや考えを生かしながら他者と触れ合い、自己有用感、充実感、達成感を抱き、**社会的な自己実現**を図ろうとする。

2 体験を生かした道徳の授業を工夫する

(1) 自分自身の成長にかかわっている体験を生かす

子どもは、毎日の生活の中で自分をよりよくしようと考え、様々なことをがんばろうとする。また、時には悩んだり、やりたいことに身が入らなくなったりする。

「道徳の時間」は、そのような子どもたちの日常の体験が反映する時間である。

教師は「道徳の時間」の話し合いに、そうした子どもの体験が反映するように多様な工夫を試みる大切である。

日常の体験を生かす展開例

(小学校中学年)

- (1) 今、がんばって続けていることにどんなことがあるかな？
(あいさつ、日記、なわとびなど)
- (2) この資料では、どんなことに迷ったり困ったりしながらがんばっているのかな。
- (3) 資料の人物と同じような気持ちになったのはどんなことかな。
- (4) 今、自分はどんなことができそうかな。

(2) 多様な人々とのかかわりを生かす

例えば、休み時間は、子どもが友達と自由に過ごせる時間である。そのような場面では、子どもは自分の意思を相手に伝え、互いのかかわりを意識しながらともに楽しい時間を創り出している。

このように、他の人とかかわることの道徳的な意義を、資料を手がかりにしながら「道徳の時間」で明らかにしたい。

こうした学習を通して、子どもたちは他の人とかかわりをもちながら生活することの大切さを感じとることができる。

友達とのかかわりの中で子どもの思いを生かす展開例(小学校高学年)

(1)(一枚絵を見て)この絵の中の一人ぼっちの子の気持ちを考えよう。

(2)この資料の中では、登場人物が迷いながらも、勇気を出しているよ。

(3)友達によさを感じたことはどんなことかな。

(4)だれもが友達のことと同じ願いをもっているんだ。

(3) 自然のすばらしさや生命の躍動を感じた体験を生かす

自然の中で遊んだり、生活したりすると、子どもはその豊かな感性で自然のすばらしさを様々な角度から感じている。例えば、美しく咲いている花、たくましく生きている動物などに生命の尊さを実感し、深い感動を味わっている。また、精一杯走っているときや、心から歌声を響かせているときなどに生命の躍動を感じ、生命の力強さに感動することもある。

このような体験を「道徳の時間」に話し合ったり、資料に重ね合わせて考えたりすることで、輝く自分を自覚でき、自分をより大切にしようという気持ちが高められていく。

栽培活動など、生命の大切さについての体験を生かした「道徳の時間」の指導例

主題名 「生命の大切さを考える」3-(2)

資料(児童詩)4行詩 指導学年 小学校低学年

<ねらいの焦点化>

- ・身近なものの「生命」の営みを感じ取る。
- ・生命あるもの全てをかけがえのないものとして大切にしようとする心情を育てる。

「あさがおさん」

1年

あさがおさん
おげんきにいますか
はい
いますよ

展開の概要(低学年)

	指導の流れ	支援・留意点
気づく	1 生き物を育てた経験を発表する。	命が育っていく様子,それを見たり,感じたりした経験を発表させる。
とらえる	2 詩「あさがおさん」を読む。 3 情景を想像して考える。 ・お話をしているのは,誰と誰でしょう。 ・この詩の季節はいつでしょう。 ・どうして話しかけたでしょう。	「夏」ではなく,「冬」であることを知らせる。 「あさがおさん」が,たねであることに気づかせる。

体験がベースにあるので、読解にかたよることなく読み進め、自由な発想で考えさせることができる。

見 つ め る	4 自分の命のつながりを考える。 ・ 自分の命，あさがおの命， ・ 命は 何よりも大事なんだ。	自由な発想で発表させる。 お父さん，お母さんから生 まれてきたかけがえのない 命であることに気づかせる。
つ な げ る	5 あさがおの種のプレゼントをする。 ・ 小さな生命を育ててみようと思う。 6 詩「あさがおさん」を読む。 ・ 自分の心で読んでごらん。 7 「心のノート」の使用。	ひとつの種から育て，採集 した種をわたす(小さな命の つながりの意識化)。 心に芽生えた思いを込め て読ませる。

命のつながりを意識させ、他の活動と関連させながら体験を交えながら命を大切にしようという心情を芽生えさせる指導が大切である。(事後へのつながりを重視)

あさがおの栽培(事後のつながり)の体験を生かす
「ちいさいのちのゆくえ」から

・「水をやり，肥料をあげ，天気の日には外に出して日光を当ててあげました。」
・世話をして・・・「やっと，さいたんだな。命を育てるってたいへんだな。。。」
・種ができました。また種をまいて，花をどんどん咲かせたいです。命をどんどん増やしたいです。
・やった！！さいた！！ 命ってすごい。まだまだ，たくさんさいてね。あさがおさん！！

発達段階に応じた指導につなげながら，道徳的実践力の向上を図る

(4) 地域における体験活動を道徳の時間に生かす

総合的な学習の時間などでは，社会生活を見つめる体験的な活動を行うことが多い。「道徳の時間」において，それらの体験的な学習を生かし，「自分と社会のつながり」について改めて考え，自分の気持ちを出し合えるようにしたい。そのような学習を通して，自分の活動に対する考え方に新たな価値を見つけることができるようになる。

地域における体験活動を生かした「道徳の時間」の指導例(中学校)

主題名 「社会のために」 4-(3) 資料名「小さな一歩」

指導学年 中学校第2学年

<ねらい>

自分と社会のつながりを自覚し，社会生活の向上に努めようとする意欲を高める。

<資料の選択について>

美化委員である主人公が、母親の町内清掃活動での出来事を聞き、「小さな一歩」から身近な環境問題に取り組むことの大切さに気づいていく内容である。体験的な学習をしてきた生徒は、主人公の悩みや挫折感を実感できると思われる。また、自分の活動がよりよい社会づくりのために役立っていることに気づかせるためにも適切な資料である。

展開の概要（中学校第2学年）

	指導内容	支援・留意点
気づく	1 地域で行った様々な活動について想起する。	活動の様子を写真で提示して想起させる。 アンケート結果を提示して、自分の活動と社会とのかわりのとらえ方に注目させ、問題意識を高める。
とらえる	2 資料を読み、話し合う。 ・資料中の「環境問題」に関する発言に対して、どのように感じましたか。 ・お母さんの気持ちが変わったのは、どんな気持ちからでしょう。 ・クリーン作戦におじいさんが「ありがとう」と声をかけたのはどんな気持ちからでしょう。	自分の活動がささやかではあっても社会の役に立っており、意義があるのだということに気づかせる。 社会のために尽くそうとする気持ちが、他の人の心も明るく幸せにすることに気づかせる。
見つける	3 自分が行ったこれまでの活動を振り返る。	これまでの体験活動の中に、ささやかではあっても価値があることを感じ取らせる。
つなげる	4 今後、自分たちにできることを考え、カードに記入し、交流する。 5 教師の話聞く。	実践化への意欲を高める。 学校に届けられた感謝の手紙を紹介する。

導入で写真や映像、アンケートなどを用いて体験を振り返り起こし、より自分のこととして考えることができる。

資料の内容から、これまでの体験を想起し、自分たちの体験と似た資料の場面で、子どもの気持ちを十分投影させる活動を位置付ける。

自らの体験にフィードバックして、新たな気持ちや意欲を育てる指導が大切である。

1 効果的な連携を進めるためのしくみを工夫する

学校が家庭や地域社会と連携して子どもの豊かな心の育成を図っていくためには、それぞれが、道徳教育に果たす役割を十分に認識する必要がある。家庭や地域の人々は、誰もが地域を大事にする子どもを育てたいと願っている。そこで、学校が家庭や地域社会に担ってほしい役割を伝えながら、地域全体を組織化していくことが重要になってくる。

そのための工夫として、次のようなことが考えられる。

学校として目指す子ども像を示す

学校は、家庭や地域の特色や願いを捉え、学校として目指す子ども像を、全教師で共通理解するとともに、学校の通信や保護者会、地域の人々との懇談会などで伝えていくことが大切である。その際、目指す子ども像が、家庭や地域の人々に分かりやすく、親しみやすく、共感できる内容のものであることが望まれる。通信類は、学校における道徳教育の理解を促進し、保護者や地域の人々との共通理解を図る重要な手段である。今後は、学校や教育委員会のホームページを活用した広報活動も考えられる。

家庭や地域社会の教育力を組織化する

例えば、保護者の代表、地域の代表、民生・児童委員、近隣の学校の代表などの連絡組織を作り、地域で子どもの心を育てるネットワークづくりを進めることが考えられる。そこで、それぞれの役割を確認し、子どもへのかかわり方の見通しをもつことができる。

(1) 「道徳の時間」を家庭や地域社会に公開する

家庭や地域社会に対し、学校における道徳教育への理解と協力を求めるためには、日ごろから開かれた学校づくりを進めることが大切である。

「道徳の時間」を保護者や地域の方々に公開することは、このような学校の姿勢を示す上で、たいへん有効である。

8日(木)の参観日に、ぜひご参加を!

8日(木)5時間目、5年2組では、道徳の授業を予定しております。『みんなのために』というテーマで、考えたり発表したりする時間です。保護者の方もグループ協議に入ってください、子どもたちの話を聞きながら、アドバイスをいただければと思っています。

子どもたちが、保護者や地域の方の声を聞き、「ともに支え合って」生きているのだということに気づいてほしいと願っています。よろしくお願いいたします。

道徳の授業参観に関する通信文(例)

(2) 家庭や地域の方々の協力を得た授業を工夫する

保護者や地域住民の中には、多様な経験をもっていたり、専門的な知識や技能を身に付けている人などが多くいる。そのような人を発掘し、いつでも協力を得られるシステムをつくることにより、道徳教育を一層充実させることができる。

家庭や地域の方々と連携を図った実践例（第5学年）

時期	主題名 奉仕する喜び	項目	4 - (4)
11月	資料名 「大森浜の美しさを守る」 (自作資料)	ねらい	身近な環境保護に対する自覚を高め、公共のために役立とうとする態度を養う。
展開の概要	<p>気づく：大森浜の写真を見て、気づいたことを発表する。</p> <p>とらえる：たった一人で、毎日大森浜の清掃を行っている人がいることを知る。 さんについて詳しく知る。</p> <p>とらえる：資料を読み、さんの願いや喜びについて考える。 さんが清掃を行ったきっかけについて知る。 さんの願いや喜びを考える。</p> <p>見つめる：自分自身の経験をふりかえり、交流する。</p> <p>つなげる：さんに手紙を書く。</p>		
<p>指導の効果を高めるために ～家庭や地域の人たちの協力を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を図る・・・事前に保護者に依頼してアンケート調査を行う。(下図参照) ・地域の人材活用を図る・・・地域に住んでいる さんの活動を資料化して学習に生かす。 			

事後に体験活動を行い、意欲を高める

事後に、地域の方をゲストティーチャーとして、教室に招き、話をしてもらう機会をつくる。

市主催の大森浜ゴミ拾いボランティア活動を授業に生かす。

保護者の皆様へ

(略)「自分や友だち、家族のつけた自分のよさ」を受け止め、これからも大切にしようとする態度を育てる」というねらいで道徳の授業を計画しています。お子さんのよいところをご記入願います。(略)

.....

あなたのよいところはズバリ

.....

です。これからもそのよさを生かし、のびのびすごしてください。

< 保護者アンケートの例 >

2 家庭と協力して、温かい人間関係を育てる

家庭は、人格の基礎を形成する場として重要であり、人格形成の第一歩は、家庭における道德教育に始まっている。

子どもは家庭において、しつけを通して道德教育の基礎を身に付け、学校生活の中で、社会性や協調性、社会生活のルールなど、より高度な道德的価値を理解し、道德的実践力を身に付けていく。

学校と家庭がともに補い合い連携しながら、一貫した道德教育を進めたい。

(1) 保護者が道德の時間に参加する機会をつくる

道德の授業への保護者の参加の仕方には、様々な方法がある。例えば、特技や専門知識を生かし、子どもへのメッセージを送る講師の役割として、また、授業の進行に関わる指導チームの一人としての参加の仕方などである。

保護者が参加する道德の授業の実践例(第5学年)

時期	主題名 感謝する心	項目	2 - (5)
7月 (3)	資料名 「みんなのために」	ねらい	日々の生活が、人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気づかせ、その中で自分が生きていることに感謝する心情をもたせる。
展開の 大要	気づく	：「感謝」に関するアンケート結果を見る。	
	とらえる	資料の前半部分を読み、話し合う。 後半の内容を予想し、発表する。	
	とらえる	資料の後半部分を読み、話し合う。 私がもらった素晴らしいプレゼントとはなにか。(保護者参加) 自分たちの身近な生活の中で、私のようなプレゼントをもらったことがないか。	
	みつめる	：総合的な学習の時間での自分たちの活動をふりかえり、取り組んだときの気持ちを発表する。	
	つなげる	：保護者から寄せられた声や地域の方からの手紙の内容を聞く。	
<p>指導の効果を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を図る・・・保護者参加型の授業にする。子どもと共に話し合いをしたり、事前にアンケートに協力してもらったりする。 ・地域との連携を図る・・・地域の方から寄せられた声や手紙を授業の中で伝える。 			

保護者が児童のグループに入り、児童の司会のもと、意見や感想を発表する場面をつくる。

3 地域の特色を生かし，地域の人々との触れ合いを大切にした取り組みを工夫する

地域には年中行事，伝統工芸，伝統芸能，民話・伝説などの文化がある。また，それらを支える多くの人々が住み，多様な施設がある。そのすべてが，子どもの心を育てるための貴重な体験の素材となる。

このような地域にある人材や素材を多様に活用し，子どもの道德性を確かなものにしていくことが大切である。

(1) 家庭や地域社会との触れ合いを深める

学校は，地域での活動や地域の人々が参加できる活動などを積極的に計画し，地域にも進んで協力を求めていくことが大切である。また，地域が主体となって企画するものも多いことから，学校は，地域行事や地域での活動に，積極的に子どもの参加を働きかけ，教師自身もかかわりをもつようにしたいものである。それらの体験を道德の時間で想起させたり，道德の時間の指導後の体験活動として行うことによって，さらなる子どもの豊かな心の育成が期待できる。

P T A や生徒会による学校施設を活用した地域行事の企画

市立B中学校では，P T A が主催し，家庭や地域の方々，教職員，生徒らの手による「ふれあい広場」が年に1回開かれている。ボランティア活動を通して相互の連帯感が深まっている。

地域主催のイベントへの参加

- ・町会行事（キャンプ，節分等）への参加

長期休業を利用して町会が行う様々な行事への参加を呼びかけるとともに，地域によっては生徒会の活動と結び付けて，節分等に参加し，交流している学校もある。

- ・函館野外劇への参加

市立C中学校では，校区内に五稜郭公園があることもあり，毎年行われる市民野外劇に主に3年生が参加し，交流している。

職場，福祉施設への訪問

校区内の商店等での職業体験や福祉施設などへの訪問を通じて，子どもを理解してもらうとともに，地域の方々と子どもとの交流が深まるなどの効果も上がっており，多くの学校で実施されている。

(2) 高齢者との触れ合いを深める

高齢者との交流は，子どもの人間的な成長に大きな効果がある。

D小学校では，低学年を対象に地域の高齢者を講師に招き，昔の遊びを教わる取組をしている。たくさんの地域の方の参加の中，子どもが生き生きと活動し，「また来てください。」というお礼の言葉に目を細める高齢者の表情が印象的である。また，老人福祉施設への訪問交流なども，高齢者とのかかわりを通して，人生の先輩に対する敬愛



の気持ちをはぐくむ観点から大変効果的である。

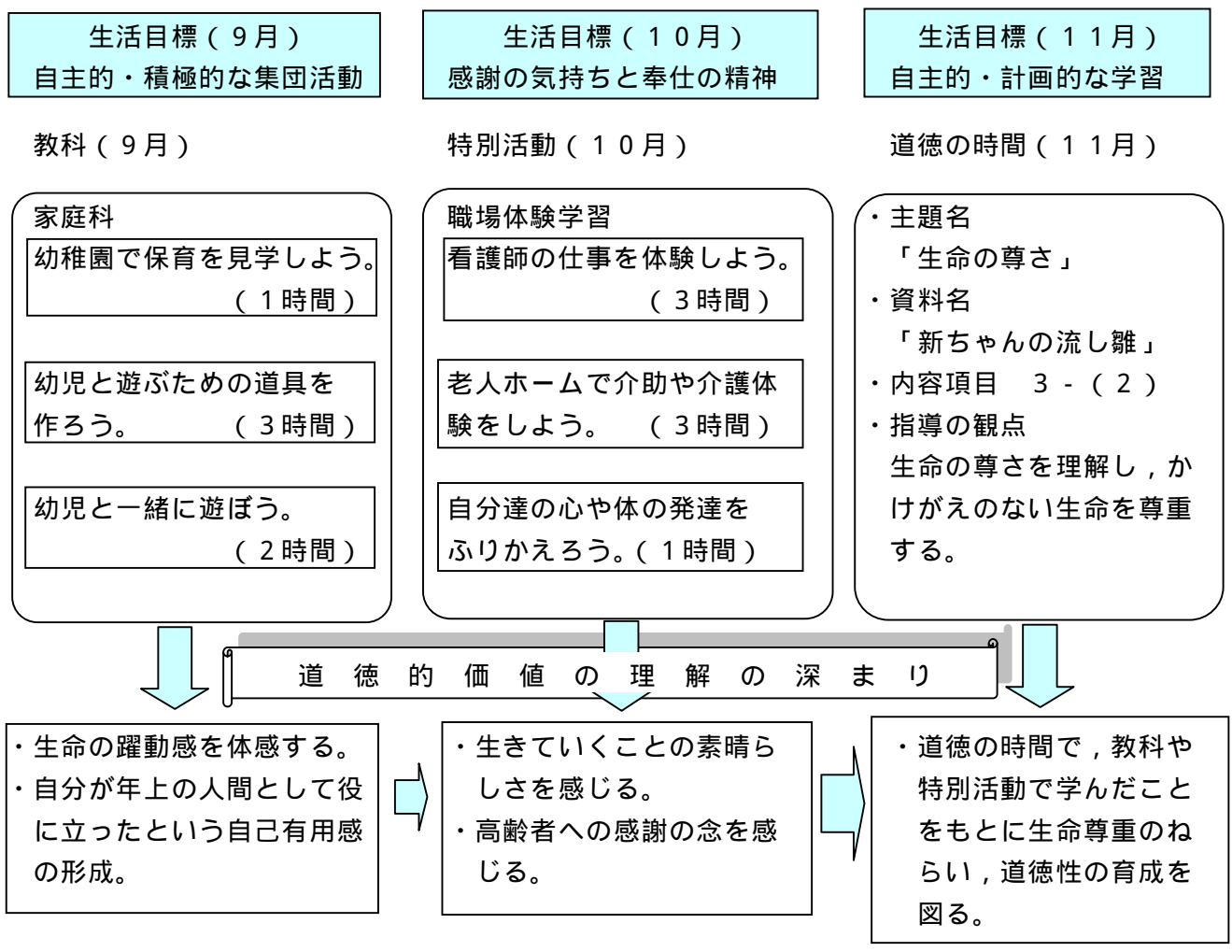
各教科，特別活動，総合的な学習の時間との関連を図った 道徳教育の充実

学校における道徳教育は，道徳の時間をかなめとして，各教科，特別活動，総合的な学習の時間など，全教育活動を通して，子どもの道徳性の育成を図るものである。

1 各教科や特別活動と響き合わせる

各教科における学習と「道徳の時間」の指導のねらいが同じ方向性をもつものである場合，学習時期や教材を考慮したり，相互に連続させたりして，関連をもたせた指導をすることによって，互いの効果を一層高めることができる。

家庭科（教科），特別活動と「道徳の時間」の関連を図った実践例（中学校第3学年）



高めたい道徳性の内容

3の(2)・・・生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。
 4の(6)・・・父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

中学校学習指導要領解説 道徳編

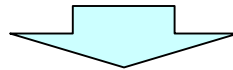
2 総合的な学習の時間と響き合わせる

総合的な学習の時間においては、子どもの興味・関心に基づく体験的な学習を通して道徳性の育成が図られる。子どもの道徳性がより発展的、調和的に育っていくよう総合的な学習の時間と道徳の時間との関連を図り、全体として道徳教育を充実していくことが大切である。

総合的な学習の時間と道徳の時間の関連を図った実践例（小学校）

総合的な学習の時間 「わがまち函館のよさを紹介しよう！！」（取材まで12時間）

函館について、知っていることを交流し、調べたいことを考える。（2時間）
 函館のよさについて資料で調べる。（1時間）
 函館でしかできない体験や取材を考える。（2時間）
 インターネットや文献などをもとに、広く紹介したい函館のよさについて考える。（2時間）
 取材や体験したいテーマについて話し合い、取材や体験の準備をする。（2時間）
 グループごとに取材に出かける。（3時間）



道徳の時間（1時間）

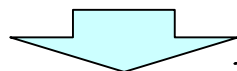
主題名「郷土を守る」4 - (7) 資料名「町名を守る」

<ねらい> 人は誰でも郷土の自然や文化、伝統に愛着をもつ気持ちがあることに気づかせ、郷土を大切にしていこうとする意欲を高める

展開の概要（第5学年）

	指導の流れ	支援・留意点
気づく	1 自分たちが大切にしている物や思い出について振り返る。	大切にしている理由を考えさせる。
つなげる	2 資料「町名を守る」を読み、古くからの地名を守るために活動した人たちの心情を考える。	町並みのよさを大切にしている三宅さんの気持ちに共感させるようにする。
見つける	3 これからも、残していきたい郷土のよさについて話し合う。	函館にスポットあて、どんなところを残していきたいか発表させる。
ひろげる	4 郷土を愛し、郷土を新聞（テレビ）で紹介している方の話を聞く。	地域の方との交流を図る。

総合的な学習の時間で地域の人にインタビューしてきたことや交流したことを関連させ、郷土愛を高めていく。



高まる郷土愛

総合的な学習の時間 「わがまち函館のよさを紹介しよう！！」（まとめ・発信7時間）

取材してきたことをもとに、函館のよさを様々な方法（新聞、パンフレット、ホームページなど）で発信する。（7時間）
 よさを改めて話し合い、郷土への意識を高める。

道徳教育の評価の在り方

道徳教育における評価は、教師が子どもの人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気づけるはたらきをもっている。従って、教師と子どもの温かな人間的触れ合いやカウンセリング・マインドに基づいて共感的に理解することが大切である。

共感的な子ども理解を深めるために
子どもにかかわりながら観察することを心がける
子どもの心の成長の経緯を大切に
教師の共感性を高める

1 評価の進め方

子どもの道徳性を捉えようとするときには、評価の観点や子どもを見取る視点を明確にすることが重要となる。子どもの道徳性は本来、全人格にかかわるものであり、子どもを全体像としてとらえ、そのよさや気になる兆候などをエピソードとして積み上げることが大切である。

< 評価観点例 >

【観点1 道徳性の諸様相をもとに】

道徳的心情 望ましい考え方やよりよい生き方にどのような感情をもっているか。
道徳的判断力 善悪の判断を下す場面で、どのように思考し判断するか。
道徳的実践意欲と態度 よりよく生きようとする意志や構えがどれだけ育っているか。
道徳的習慣 基本的な生活習慣などをどの程度身に付けているか。

【観点2 道徳の内容項目をもとに】

各学年ごとの内容項目を評価の窓口とする。
学校での重点内容項目を窓口とする。

【観点3 指導要録の「行動の記録」をもとに】

「基本的な生活習慣」「自主・自律」などの10項目を評価の窓口とする。

< 評価方法例 >

ノートやファイル 保護者や周囲の人の評価 自己評価・相互評価
子どものサイン（言動、交友関係、作文、日記、ワークシートなど）

2 「道徳の時間」における評価

道徳の授業を通して、子どもの成長を支える評価を行うためには、子どもの興味・関心を高める授業の構想（事前の段階）、授業場面における子どもの活動への対応（授業時）、指導課題の設定とその後の見守り方（事後の段階）のそれぞれの段階についての評価を工夫していく必要がある。

< 事前に子どもの実態をとらえる観点例 >

授業でねらいとする内容項目について、それまでの評価はどうであったか。
主題にかかわって、どのような体験があるか。（各教科等・学校生活・家庭・地域の中で）
子ども自身が主題にかかわっての自分の感じ方、行為の現状をどう見ているか。
ねらいにかかわる内容項目について、子ども相互間ではどのように見られるか。

< 授業時に学習をとらえる観点例 >

学習に子どもたちが主体的に取り組んでいるか。
特定の子どもの発言に偏っていないか。
子どもの考えの真意がくみ取れているか。
話し合いがねらいに向かって深まっているか。
子どもの気付きや成長を見逃していないか。

< 授業後に行う評価の工夫例 >

授業後に教師による授業評価を工夫しているか。
授業後の子どもの姿を見届けているか。
他の教育活動へと子どもの意識をつないでいるか。

3 指導計画の評価

子どもたちの豊かな成長を支援していくためには、常に指導の拠り所となる全体計画、年間指導計画、学級における指導計画などが、子どもの心の成長に役立つものであるかなど、子どもの立場に立って、評価の工夫、改善を図ることが大切である。

< 重点的に扱う内容項目の見直しの観点（例） > < 道徳資料についてのアンケート用紙（例） >

同じ内容項目の学習で、発展や広がりが見られるか。
ねらいとする道徳性の様相に変化が見られるか。
他の道徳的価値の内容と関連、複合させ、より広がりのあるものになっているか。
ねらいとする道徳的価値の内容の構成要素を分析して具体的なものになっているか。
複数の内容項目を有機的に関連させているか。

あなたが道徳の授業で、
強く心に残っているととても役に立つという資料に をつけてください。
心に残っている、役に立ったという資料に

資料の名前	印
郷土を守る	

授業時に学習をとらえる観点（例）

学習に子どもたちが主体的に取り組んでいるか。
 特定の子どもの発言に偏っていないか。
 子どものかの考の真意がくみ取れているか。
 話し合いがねらいに向かつて深まっているか。
 子どものかづきや成長を見逃していないか。

【指導と評価の一体化】
 子どものか変化や成長したことなどを伝え、子どものか発言に温かい言葉をかけていくよう心がける。

子どものか自己評価欄を設け、評価を行った例（第4学年）

子どもが自分の学びを振り返る

教師は授業評価や授業改善に生かす

今日の道徳の時間は、・・・

集中して学習に取り組めましたか。	
資料に出てくる人の立場に立って考えられましたか。	
感じたことや考えたことをすすんで伝えたいと思いましたか。	
友だちのか考えが自分の考えをふくらませるために参考になりましたか。	
今日の学習について 感じたこと	町会長の話を聞いて、みんなのためにがんばっていてえらいなあと思いました。ぼくも、自分にできることで役に立ちたいと思いました。

子どものか疑問などを学習に位置付ける。
 抽象的な発問は具体化し、子どものか言葉で問いかける。
 すぐに発言を求めずに、考える時間、書く時間を確保し、小グループによる話し合いなどを取り入れる。
 共感的に耳を傾け、子どもが語りやすくする。
 ねらいにかかわって子ども相互のか発言をつなげ、自力解決に向かうような話し合いを組み立てる。

ゲストティーチャーの話を設定し、意欲の喚起を促す。

わたしは、みなさん方、子どもや地域の人たちのためにと、ごみの収集日には、出されたごみの点検や始末をしたり、冬には通学路の雪かきをしたりしています。また、みなさん方が安全に登下校できるよう、交代で通学路を見守ったり、車に安全をよびかけるステッカーを貼って運転したりしています。自分たちでできることは、少しでもお役に立ちたいと思っています。

<町会長の話>

事後の評価を指導に生かした例（30ページ参照）

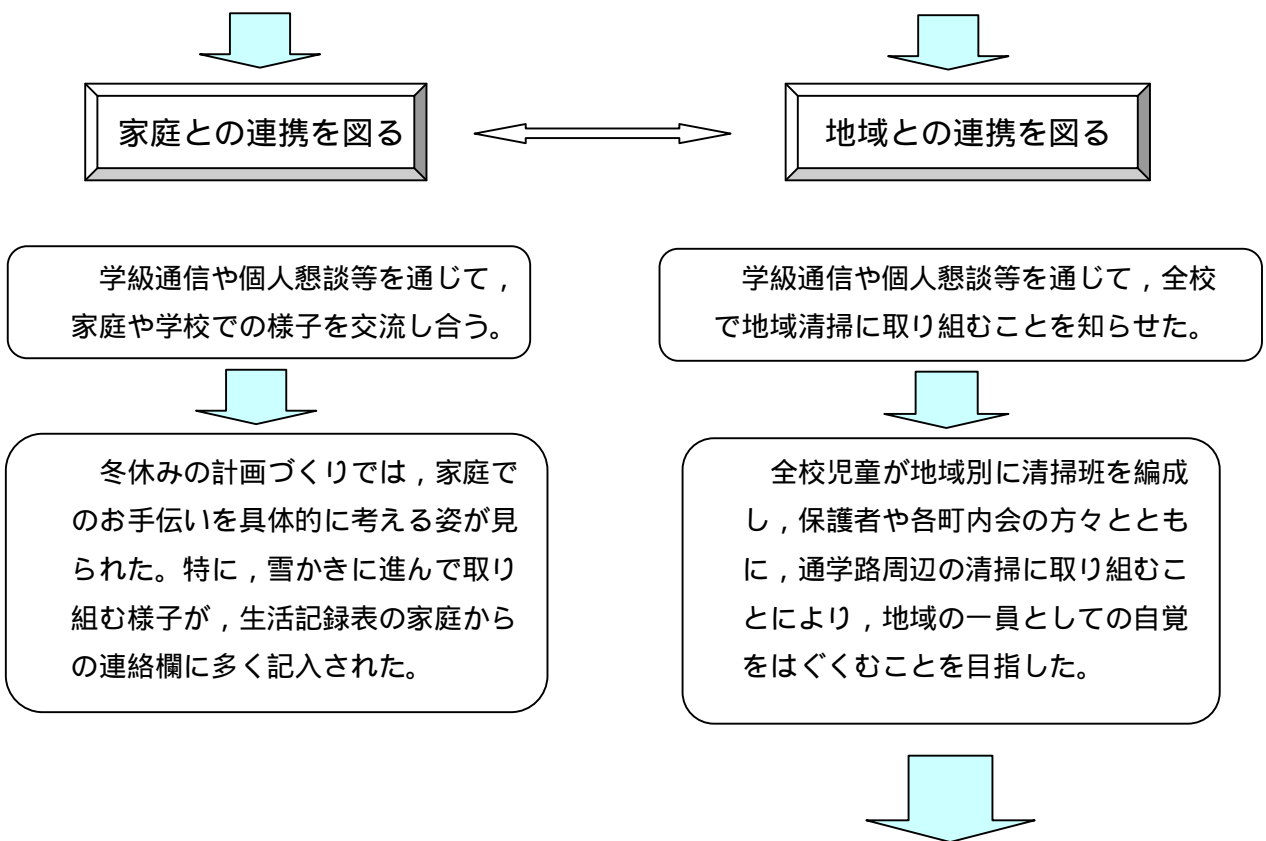
事後の評価は，教師自身による実践そのものの評価，授業後の子どもの姿の見取り，子どもの課題意識や実践意欲の広がりなどを見取りからなる。

授業後の教師による授業評価を工夫する。

- ・ 例えば，年間指導計画（展開の概要）に授業評価欄を設け，そこに書き込むことを通して，授業改善に生かす。

授業後の子どもの姿を評価する。

- ・ 授業後，主題にかかわる子どもの実態を注視しながら，一人一人に応じた事後の指導も考える。他の教育活動への意欲を高める。
- ・ 道徳の時間で培われた課題意識や実践意欲を広げ，他の活動との関連を図るために，子どもが挑戦していく機会や活躍の機会を設定するなど，意図的に出番を設けるような工夫をする。



【全校地域清掃に参加した子どもたちの作文より】

今回，わたしは，町会の人たちといっしょに通学路や公園の清そうをしました。ごみをどんどんひろっていくうちに，わたしの心もピカピカになっていく感じになりました。明日から，しばらくここを通る人がいい気持ちでいられると思うと，なんだかうれしくなります。

「心のノート」の効果的な活用

子どもの道徳性を育むための資料である「心のノート」は、自らの生き方について考えたり、自分の気持ちを記録したりするために役立てるとともに、学校・家庭・地域との架け橋としてなど、多様な活用が考えられる。そのため、学校や子どもの実態に応じて計画的な活用に努めることが大切である。

1 「心のノート」の活用場面と活用方法

< 活用場面 >

< 活用方法例 >

(1) 日常生活の中で

- ・朝の会・帰りの会での話し合い
- ・朝読書の時間 < P34 実践例参照 >
- ・学校・学級掲示板など
- ・家族との話し合い
- ・長期休業中の心構えなど

- ・朝や帰りの会などで継続的に活用することで、自分の考えや行動の変化に気づく。
- ・「心のノート」の、名作からの言葉をきっかけに、読書への興味・関心が喚起される。

(2) 各教科の学習内容に関連させて

- ・美しさを感じる心を大切にする
《図画工作・美術》
- ・文化や伝統に触れ愛情を深める《社会》
- ・生命尊重の気持ちを深める《保健体育》
など

- ・活動したことを振り返ったり、やりたいことを見つけたりするときに生かす。
- ・「心のノート」に書き留めた感動を話したり文章にすることにより、伝え合う力を高めたりする。

(3) 特別活動で

- ・学級活動
- ・進路指導，児童会・生徒会活動
- ・学校行事，自然体験活動 など

- ・学級活動で、望ましい人間関係について考えるための資料として生かす。
- ・「心のノート」のポスター的側面を生かし、掲示するなどして学校行事への参加意欲を高める。

(4) 道徳の時間で

- ・導入・展開・終末・事後などでの補助的な活用
- ・体験や意見の交流場面での活用

- ・ワークシートに使用したり、授業の導入やまとめに使用する。
- ・事前に取り組み、意欲付けに活用する。

(5) 総合的な学習の時間で

- ・国際理解，情報教育，環境問題
- ・福祉・健康（ノーマライゼーション）
など

- ・子どもが多様な課題の中から学習課題を設定する時の情報として生かす。
- ・様々な課題の中で、自分の生き方を考えることができるようにする。

(6) 学校，家庭，地域との連携場面で

- ・各種通信，保護者懇談会
- ・異校種との連携・交流，家族との交流
- ・生徒理解の深化

- ・通信や保護者会で、プライバシーに配慮しながらの話題提供，一緒に考えるきっかけづくりとする。

2 「心のノート」の活用における留意事項

「心のノート」活用に当たっては、次の点に留意したい。

- (1) 子どもが日常的に活用できるよう工夫する。
- (2) 各教科等において、その学習の特質に即して適切に用いる。
- (3) 継続的、発展的に用いることができるようにする。
- (4) 子どものプライバシーに配慮する。
- (5) 保護者や地域の人々の協力が得られるようにする。

「心のノート」の活用例（朝の会の活動場面の様子から）小学校第3学年

月曜日の朝、挨拶の場面で、子どもたちが休みの疲れからか、元気のない挨拶をした。

T 「どうしたかな、元気のない挨拶だね。」

S 1 「先生、まだ、ねむたい。」

S 2 「疲れちゃった。」「今日はあいさつなしにしよう。」

T 「疲れたって、まだ、朝でしょう。（月曜日の、朝だからな,,,）」

T 「もし、挨拶の言葉がなかったら、どうなっちゃうかな。」

T 「そうだ、心のノートを開いてごらん。」

「心がかよい合う「あいさつの言葉」《小学校中学年36ページ》

クロスワードに挑戦させる。 S 「いろんな、挨拶の言葉が、あるんだね。」

S 「わたしの、知らない言葉もある。」

子どもたちは、自分が書いた挨拶の言葉を、つぶやき始める。

T 「どんな気持ちになりましたか？」 S 「なんか、いい気持ち」 S 「心がつながる。」

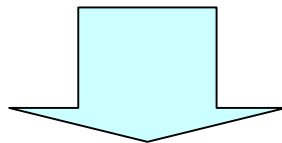
S 「ただ言うだけじゃだめだよ。気持ちがなくちゃ。」

S 「先生、私のまわりには、私の知らない、いろいろな光る言葉があるんだね。」

T 「先生や周りのみんなにも、気持ち伝えてほしいな。」

もう一度、挨拶をする。ただ声が大きいただけではなく、まっすぐ前を向き、笑顔での挨拶が返ってきた。子どもたちの、気持ちが伝わってくるようだ。

心のノートの活用場面



道徳の時間の展開にも利用し、子どもの道徳性をさらに高めていく。

ねらい 2 - (1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。

【主な参考・引用文献】

- | | |
|--|-----------------|
| ・小学校学習指導要領解説「道徳編」 | 文部省 |
| ・中学校学習指導要領解説「道徳編」 | 文部省 |
| ・道徳教育推進資料「心に響き，共に未来を拓く道徳教育の展開」 | 文部科学省 |
| ・「心のノート」を生かした道徳教育の展開
- 「心のノート」活用事例集 - | 文部科学省 |
| ・「豊かな人間性をはぐくむ教育の創造に関する研究」 | 広島県立教育センター研究紀要 |
| ・「道徳における学習指導と評価の充実」 | 初等教育資料 平成15年1月号 |
| ・「道徳の時間の実践的指導力を高めよう」 | 初等教育資料 平成17年4月号 |
| ・「心に響く道徳教育をめざして」 | 兵庫県教育委員会 |
| ・「新しい道徳教育論 人間の生活を考える」 | ミネルヴァ書房 |
| ・「道徳教育論 対話による対話への教育」 | ナカニシヤ出版 |
| ・「こうすれば心が育つ いま望まれる道徳教育」 | 小学館 |
| ・「家庭・地域と共にすすめる新しい『道徳』授業17のポイントと読み物資料展開例」 | 小学館 |

< 学校教育資料作成委員会 >

委員長	函館市立大川中学校	校長	大西正光
副委員長	函館市立金堀小学校	教頭	松村淳
委員	函館市立高盛小学校	教諭	三橋恵子
委員	函館市立中の沢小学校	教諭	花田久美
委員	函館市立駒場小学校	教諭	三宅貴裕
委員	函館市立的場中学校	教諭	蛭子友正
委員	函館市立赤川中学校	教諭	野村真紀子
委員	函館市立戸倉中学校	教諭	佐藤大輔

平成18年度 学校教育指導資料 「一人一人に豊かな心をはぐくむ道徳教育を進めるために」

発行 函館市教育委員会
函館市東雲町4番13号
電話 (0138) 21-3557
発行日 平成19年3月31日
